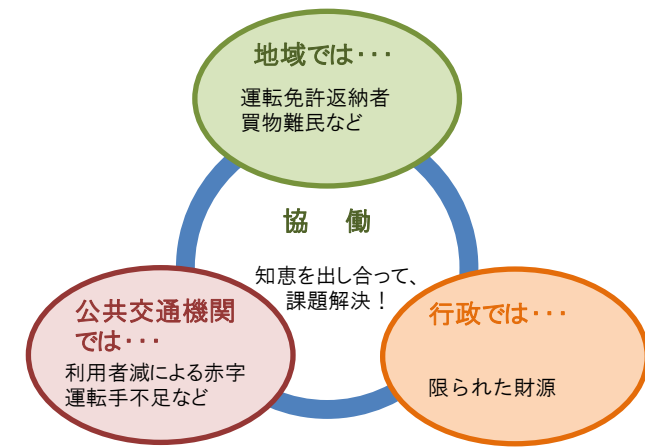
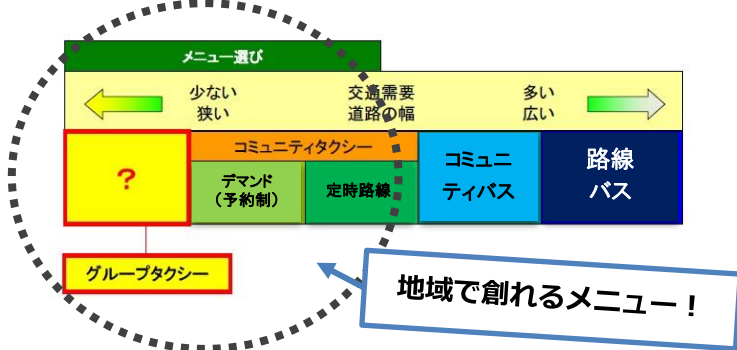


【公共交通を取り巻く課題。ともに取り組みましょう！】



【地域の話し合いで生まれたグループタクシー】



### 山口市の主な支援制度

- 相乗りするほどお得なグループタクシー利用券...65歳以上で最寄りの公共交通機関から1km(75歳以上700m)以上離れている方に距離に応じて300円、500円、700円の利用券を年間60枚交付
- 福祉タクシー利用券...障害者手帳をお持ちの方に300円の利用券を年間40枚または80枚交付
- おでかけサポートタクシー券...要支援・要介護認定を受けている方、介護予防・日常生活支援サービス事業対象者に300円の利用券を年間40枚交付(グループタクシー・福祉タクシー・おでかけサポートタクシー利用券の重複申請は不可)
- 福祉優待バス乗車証...70歳以上、市内の路線バスに限り乗車100円
- サイクル・アンド・ライド、パーク・アンド・ライド(乗り換え専用の駐輪場・駐車場)
- ノーマイカーデー参加登録者への毎月第3金曜日のバス半額割引、協賛店舗での特典サービス
- バス停上屋設置の補助金  
補助対象経費の2/3以内、補助限度額70万円

詳細は、山口市交通政策課までお問い合わせください!

# 創ろう!守ろう!みんなの公共交通 地域検討会 かわら版

小 郡 編  
平成29年5月発行



### 参加者アンケートより<11名回答>

Q地域検討会への参加により公共交通への理解が深まりましたか?

- ①深まった 10人
- ②どちらともいえない 1人
- ③深まらなかった 0人

Q公共交通を利用しようと思えますか?

- ①引き続き利用する 5人
- ②これからは利用する 3人
- ③わからない 1人
- ④利用しない 1人

Q公共交通を守る必要を感じましたか?

- ①感じた 10人
- ②どちらともいえない 1人
- ③感じない 0人

Q地域での話し合いの必要性を感じましたか?

- ①感じた 8人
- ②どちらともいえない 3人
- ③感じない 0人

### 【感想(抜粋)】

- プログラムはとても良かった。公共交通利用意識を高めるためのきめ細かなPRが必要です。講師の説明はよくわかった。
- 会議のPRが必要と感じた。もう少し出席者を増やしてほしい。
- 公共交通の利用のPRは徹底して!利用度UPするようにPRを!
- サルビア号の2号を空白地域に通そうという機運になったのはよかった。ただ、その方法を地域の人は悩んで真剣に考えているが、その最初から、担当職員が全面的に関わって進めるべきだ。

今後に向けて地域の話し合いを応援します!  
詳細は、交通政策課にご相談ください。協働推進課とも連携し、専門家のサポートも受けられるように調整します。

山口市では、市民が将来に不安を感じることなく、安心して生活できるよう、マイカーに頼り過ぎず、移動手段の軸足を公共交通へ転換していくために、まちづくりや地域づくりなど総合的な観点から山口市では「山口市市民交通計画」を平成19年に策定し取り組んできました。

その中で、交通弱者のためになんとかしたいという思いから、コミュニティタクシーの運営組織(小鯖・宮野・嘉川・小郡・秋穂・佐山・阿知須・島地)が立ち上がり、地域が主体となり、地域のニーズにあったコミュニティ交通が整えられました。また、更なる交通弱者への対策としてグループタクシー(相乗り)の仕組みも新設しました。あわせて、都市核、地域核間を結ぶバスや鉄道についても維持強化を図ってきたところです。

しかしながら、鉄道や路線バス等の利用者の減少や、運転手の不足により、路線の廃止や減便につながっている状況です。一方で、これからの高齢社会の中での運転免許返納者が増えるなか、ますます困る人が増えると推測されます。また、移動手段を持たない若者や通勤者にとっても、公共交通は移動手段として必要不可欠なものです。

この現状を打破し、「クルマがないと生活できない山口」から「クルマがなくても生活できる山口」に転換し、安心して住み続けられる、クルマに頼り過ぎない交通まちづくりを目指して、「第二次山口市市民交通計画」を平成29年度中に策定することとしています。

そこで、地域の皆さんに現状を理解していただくとともに、地域の事情やニーズをお伺いし、より良い交通のあり方について、一緒に考えていくため、市内を10ブロックに分けて、去る3月に地域検討会を開催しました。

3月15日（水）小郡地域交流センターにおいて、11名の参加のもと、地域検討会を開催しました。

最初に山口市市民交通計画についてご説明し、現状の課題をわかちあい、専門家の意見を頂き、課題を解決するアイデアを出し合いました。その概要をお伝えします。

この検討会を契機として、各地域の機運が高まり、それぞれの地域にあった地域公共交通を検討するための、二回目、三回目の勉強会につなげていきましょう。

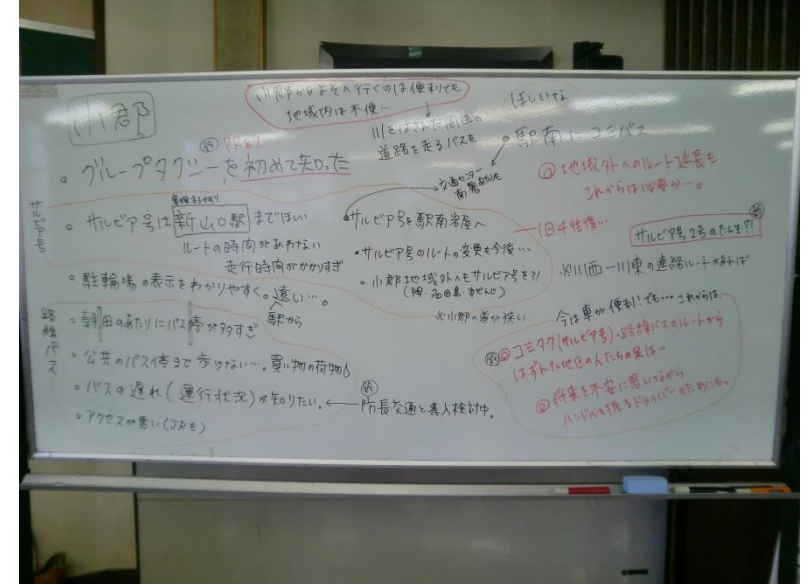


交通ジャーナリスト 鈴木文彦氏



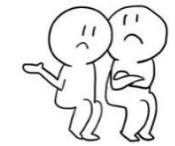
**なぜ今公共交通なのか...**  
 現在車を運転している人のうち、4人に3人は将来運転し続けることに不安を感じているという統計結果がある。マイカー依存社会は無理の上に成り立っている。  
 5年後・10年後に向けた公共交通への期待は大きい。しかし「今」はクルマの運転に困っていないところに課題。今、5年先のことを考えて行動しなければ。  
 ・山口市民の7割が1年1回(1,000円)公共交通を利用するだけで守れる！  
 ・クルマは乗らなくても1日約1,700円かかる(購入費、税金、保険、車検、駐車場代)  
 毎日の行動を車から公共交通機関に転換するのではなく、何かのときに年1回でも利用できるようになれば...  
 ・小郡を起点とした基幹交通は充実。でも地域内の移動の利便性が高くないというご意見は、一つの大きな課題。  
 ・新たな組織を立ち上げて、サルビア号2号を検討する。それで、例えば駅南地域であるとか、今ちょっと交通サービスが薄い地域をカバーしていくということは考えられる。公共交通を考えることは、まちづくりを考えること。われわれ専門家も全力で応援します！

**ボランティアシステム**  
 地域内で移動する場合の情報を事前収集し、ドライバーが移動。(事故や白タク行為抵触の懸念)



**■現状をわかちあう！■**

- 公共交通の不便
  - バスが時間どおりに来ない
  - タクシーを依頼しても、来るまでに時間がかかる
  - バスのステップが乗りにくい
  - 歩行器をバスに載せにくい
  - バスの朝一番をもう少し早い時間にしてほしい
  - バス停まで歩けない
  - バス停への長時間の違法駐車がある
  - 山口線・宇部線のアクセスが不便
  - 小郡から山口や萩へいく路線はあるが、沿線以外の小郡地域内は不便
- サルビア号
  - 新山口駅まで延伸して欲しい
  - 時刻が都合と合わない
  - ルートに時間がかかる
  - 延伸して欲しい(岩屋地区、駅南地区、旧市街地)
- グループタクシー
  - 制度を初めて知った



**公共交通の利用促進策**

各地区に、公共交通普及員みたいな人の設置	地域広報誌を活用して、公共交通のPRを
乗り継ぎ、乗り換えが便利で、円滑に移動できる交通体系を	公共交通をみんなで守る意識の向上を

**■アイデアいろいろ■**



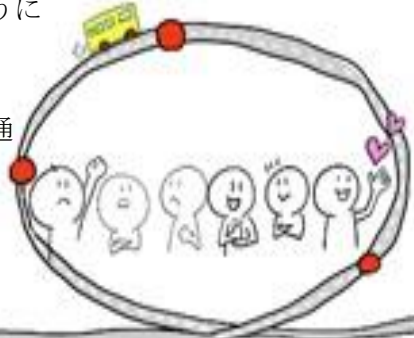
**サルビア号2号の誕生！？**

**地域を越えた路線を**

地域を越えた路線をつくる
小郡～嘉川ルート開設

**～誰もが安心して暮らせるための交通まちづくり～**

- 公共交通は社会のインフラ
  - ・公共交通を考えることは、まちづくりを考えること
  - ・誰もが自分の意思で移動できるように(高齢者・子育て世代・高校生)
- 集い歩くことが賑わいに
  - ・生活に必要な施設をつなぐ公共交通ネットワーク
  - ・多少の不便も「健康増進」と割り切る
- こどもの教育
  - ・こどもの社会との関わりが増す



**市民の公共交通満足度 27.6%**

クルマがないと生活できない山口から  
 クルマがなくても生活できる山口へ

基幹交通(バス・鉄道)の利用促進の啓発！  
 地域ニーズの把握！  
 地域での話し合い！

みんなで創る  
 持続できる  
 地域の交通！